

日本福祉文化学会北陸ブロック 2013 年度事業報告書

報告) 石井パークマン麻子

1.実施した事業の概要

(1) テーマおよび開催の目的

今回の現場セミナーでは「障がいのある人の生きがいを支えるコミュニティ～地産地消の食事づくりの実践から～」をテーマとし、障がいのある人の就労について取り上げた。仕事は、経済的な自立の意味合いだけではなく、地域に根を張り、役割を担いながら生きがいのある暮らしを成立させる重要な要素である。しかしながら長続きする仕事の創出は容易なことではない。

そこで、障がいのある人たちが、やりがいを感じながら生き生きと働ける場を創出した好事例として、福井県鯖江市のNPO 法人・小さな種こころの「食事づくり」の取り組みを理事長の清水孝次さんにお話しいただき、次に福井大学障害者就労支援室の活動報告を同支援室アドバイザーの伊藤昭彦さんをお願いした。お二人の発表後に石井パークマンから、1980年代のスウェーデンでの「障がい者が地域で生きる」という大きな政策転換の中でスタートした知的障がい者と職員による、おそらくは世界初のレストランの成り立ちと活動の展開を、当時の歴史的な背景を踏まえて報告をした。

セミナー参加者は66名(申し込み者68名の中2名は欠席)であり、内訳は障がいのある方本人、障がい者就労にかかわる職員、福祉施設職員、特別支援学校教諭、障がいのある子どもの父母、ボランティア活動従事者、市議会議員、一般の方等であった。報告後に会場との活発な意見交換が行われた。配布したアンケートの提出数は30名であり、その内容は別紙にまとめた。なお申込み用紙にメールアドレスまたは住所の記載がある方には全員、アンケートのまとめを送付する予定である。

(2) 当日のプログラム

11月2日(土)

セミナー13時30分～16時30分

λ総合司会・開会のことば(杉本)

λ主催者からの挨拶(石井パークマン)

λフルートとピアノによるミニコンサート(政井・竹内)

λシンポジウム 司会(宮川)

シンポジスト(清水孝次、伊藤昭彦、石井パークマン麻子)

λ閉会のことば(杉本)

情報交換会 18時～20時30分頃(会場:こころ)

11月3日(日)

こころファームの見学・視察 9時～11時頃

越前漆器の里見学+昼食 11時30分～14時頃

(3) 後援団体

福井県社会福祉協議会、鯖江市社会福祉協議会、福井新聞社。

2.参加者数とセミナーの情報入手経路

(1) 参加者数

参加者数は66名。内訳は学会員7名(北陸ブロック3名、その他4名)、非学会員61名。ただし1日目のセミナー参加者は64名、情報交換会・親睦会参加者は24名、2日目のファーム見学参加者は8名であった。

(2) セミナーの情報入手経路

事前申し込み書ならびに事後に提出されたアンケート用紙を参考に、集計した結果は以下のとおりである。

λ新聞を見て 4名

λ主催者（学会員）から誘われて 45人

λ不明 12人

3. 収支報告

（1）収入

λ学会からの助成金 50,000円

λセミナー参加費 27,000円 500円 X54人分

（ボランティア8人、演奏家2名と講師2名は無料）

収入合計 77,000円

（2）支出

λ会場費 17,200円

λ機器準備等 5,000円

λ講師謝金 20,000円（10,000円 x 2名分）

λ講師昼食 1,942円（840円 x 2名分、お茶代 131円 x 2名分）

λ会場看板代 1,500円

λ文房具 4,076円

λ雑費 1,600円

支出合計 51,318円

繰り越し金 25,682円

2013年11月2日（土）福井県鯖江市嚮陽会館で開催された現場セミナーでのアンケート回答30人分を、ここに記載する。なおアンケートにおける質問事項は最終頁に別紙1として添付した。

質問：このセミナーに参加して考えたこと等

- 障害者の就労の意義（障害者の生きがい、経済的な自立）、また障害者の雇用の拡大により、障害者やその特性についての正しい理解が広がるとよいと思います。
- 末永く、また親亡き後の親の安心と子の安全を第一に考えます。
- こころさんには何度か食事に出かけたことがあります。あたたかいサービスが嬉しくて、とてもよかったです。私は特別支援学級（中3）に通う男の子の母親です。去年はこころさんで職場体験もさせていただきました。息子の将来のことなど悩みは尽きませんが、少し気持ちにも余裕が出てきました。私にも何かできることがあれば、お手伝いしたいと思います。
- 地方の小都市だからできる実践に感動。大阪から来ましたが、大阪周辺で例えば松原市の市役所の食堂は精神障害の人とボランティアで、富田林市にある元府立の施設ではカレーのレストランを府立時代から、阿倍野区民センターや吹田市会館では知的障害の人が市の施設でレストランをしています。和泉市にもありますね。
- 伊藤さんと清水さんの所の回答がスウェーデンのレストランにあったように思います。効率優先、もうけ優先の今の日本社会の企業への就職は、非常に難しいと思う。むしろ、支援の段階で、一人ひとりの得意なことを見極め、必要な人たちを組み合わせ、健常者（学生でもいいが）起業させた方が早いのかもかもしれない。資金は投資家の投資を募るとか… 何か、そうした新しい発想が必要だし、障害者の人たちが働けるスピード（ペース）方法によって、仕事の間を作っていないと、我々も鬱になるまで働かされる社会になるのではないかな。
- 清水さんが開口一番におっしゃったNPOタチ上げに当たっての“高いハードルはある”“いやだな、辛いな”（それは今でもあるとのこと）のことは、よくわかります。でも“ここまでやってきたのは、どうしてでしょう…”。“変えたい、チャレンジしたい、大変だろうけど、なぜか楽しそう…それが源なのでは？行動に移す時のワクワク感、そして手応え。たまらなかったのだと思います。まとめのパワーポイント、印象に残りました。住みたくなるまち、そこにある三つの要素、「独特」というキーワードには鯖江の独自性に唸りました。まさにブランド鯖江ですネ。エネルギーをいただきました。我が居住地でも活かします。

伊藤さんのひょうひょうとしたパーソナリティのおかげで、重くならずに聞くことができました。しかしキャンパス支援員の8名の方々の労働力というか特技を“報酬”に上乗せできないものかと疑問に思いました（草引きの技…真似できません）。石井パークマンさんの発表からは学ぶものが多く、私の今の仕事にすぐに活かすことができます。そして私生活（生き方）にもです。「志が一緒であれば、離れていてもコミュニティは築くことができる。ゆるくつながることもコミュニティといえる」、納得です。異職種の方々と集まりをもっていますが、外国に住んでいらっしゃる方も遠隔地の方もいらっしゃいますが、それこそゆるやかにつながって、思いを共有しております。これからは、さまざまな垣根を越えて、共に手を取り合って生きていくことが求められます。与えられた時間は皆平等ですが、どう生きるかは個々に異なります。このようなつながりを自分の人生に生かすことができるかが、鍵を握ります。人生の主人公は“私”であること…。そして人生は一回しかないこと…。多くの方がそのことに気付けば、自然環境を破壊することもないし、化学飼料で育てられた肉や野菜を美味しいと感じることもなくなると思います。

学生（受講生）には、歴史を学ぶ重要性をいつも伝えていきます。石井さんの発表は、まさにそれを語っています。今があるのは、過去があるからです。前に進むばかりでは片手落ちです。過去から学ぶ謙虚さが欲しいですネ。「仕事人が人を成長させる」役割の中で成長するのは、障害者に限りません。障害者を特別視する社会なのですネ、まだまだ。「ノーマライゼーション」という言葉が声高に叫ばれるうちは、成熟した国家とはいえませんがね…。多くのことを考えました。

（一年以上にわたって企画を練ってこられ、本当にお疲れさまでした。丁寧で心あたたまるとおもてなしに優し

くなれそうです。そして、福井がますます好きになりました。しばらくは、ゆっくり骨休みなさって充電し、次へつなげて下さいませ。皆様、本当にありがとうございました。)

- 新しい事業には時間と努力が必要である。NPOは行政との関係が大事。法律で設置が良い場所に。
- 今の生活(仕事)が、その支えるコミュニティの中にあります。特に私は精神の障がいをもつ人たちとの場で仕事をしているのですが、特に障がい者としてではなく一人ひとりとして向き合おうとしています。今日のセミナーに参加して、世界においても障がい者の立場は変わることなく弱者であると位置づけられているみたいだと知りました。ここ鯖江から、弱者ではなく、むしろ彼らから学ぶ事の方が多い、大切な人たちだという発信が出来たら良いなと感じました。今日はありがとうございました。
- 健常者でも、思うような職に、なかなかつけない時代に、障害者の方の就労は、大変むずかしい問題だと思いました。
- どんな場面、環境の中、職場の中、どんなに年老いても、その人の出番、役割があるということは、素晴らしいことだと思います。今は自分が、その弱い立場にある人を支援する立場にあり、一人一人の思いにしっかり耳を傾け、チームとして支援をしていきたいと思います。ありがとうございました。
- 養護学校を卒業された方のその後の選択肢はほとんどなく、健常な方なら短大・大学院・専門学校等々、まだまだ学び成長していくことができます。最大で就労を5年間も支援する仕組みがあるというのは、素晴らしいと感じました。卒業した方が一生働ける、そして学び成長し続けることができる社会になっていけたらと思います。参加できてよかったです。ありがとうございました。
- 障がいのある子どもが、学校を卒業した後の世界のお話だった。生きがいと思える仕事を見つけ、就労できる喜びを持ちながら生活できると、どんなにいいことでしょう。現在の働く場の実情は、具体的にどうなのでしょう。飽和状態の福祉施設が多いと聞く中、保護者、本人、学校が安心して任せられるコミュニティ探しができるといいと思う。最後は、人だろうと思います。(しかし、生きがいと思って働けるのは、健常の人や現代の学生や大人にとっても、うらやましいことですね)。汗を流してくれる人、拓く人、見つける人…自分は何ができるだろう、振り返ってみたい。
- 障がいのある方の仕事の間も一般的な仕事の間であっても変わらないことがあるだろうこと。教育の間でもっと福祉に関する情報など知らせられたらと思うこと。
- 各事業所で、手探りでがんばっていることがよくわかりました。今後新たに事業を起こされる人のためにも、このような事例集があると無駄な労力は減り、新しいことにその労力を活かせると思うので、そのようなものができればよいと思います。
- 市民からの運営では、経済的不安も大きいけれど、それが収益につながれば、一団体として自立できるという希望をもちます。
- 障がいを持った方は、どんな働き方をしたいと思っているのだろうか？さまざまな形で提供できると良いよなと思った。「あったらいいけど誰もしない」「やりくりは文化である」「関心を持ったものでかかわってもらう」、印象深い言葉でした。「障がいのある人にとって良いことは、障がいのない人にとっても良いことだ」、私もそう思っていたので、言葉で言ってもらえてうれしく感じました。
- 障害の有無にかかわらず、働くことに生きがいを感じるこの前提に、働くことに意欲がもてるのが大切(どちらが先か？ということにもなるが)。社会に出ること、働けることの楽しさを子どもたちに少しでも、卒業する前に教えてあげられるように取り組んでいきたいと思います。
- 障がいのある方の自立支援の重要性を強く感じた。こころファームにも参加しているので、できるだけ手伝いをしていきたい。
- 自閉症児(27歳)の母です。どのお話もとても有意義で、福祉に尽力されている方が沢山いらっしゃることは、親にとってもとても有難いことだと改めて思いました。親としても出来ること、小さな事からでも、一歩ずつ前進しなくてはと思わされる会でした。
- 文化の日も近いということを知って下さった演奏、とても心豊かになりました。3曲全て、あいさつが済んでからではなく、開始5分前からの演奏でオープン。あいさつ、そしてもう一曲ラストという形でも良かったのではと思いました。障がい者が地域で働く、共生するこころさんや北欧のレストランの様子を見て、食に係る仕

事をするこの意味を改めて考え、食べ物を作る仕事は結果や反応がすぐ出る、誰にとっても出番がある。そしてもちろん生きがいがあるという。今かかわっているクッキーやパンの作業にも深くつながり、心にストンとおちました。 ケアホームにかかわる仕事をし、入所との違い、地域で働く・暮らす生きることを考え始め、こころさんのようなボランティア、マンパワーをもっと広く要請し、コミュニティ、地域、志、目的、生きがい、ゆるくつながる、ひろがる・ひろげる働きかけ、得意な人を引き込む力をもちたいと思いました。誰もがいつかは障がいという年齢にプラスされる何かをもらえるという考え方を、鯖江のものづくり、住みたくなるまちにプラスできれば福祉文化が広がっていく、こころがあるから鯖江でよかった！と思える、そんな半日でした。おさそいいただき、ありがとうございました。

- 「駅前のカフェ」朝食を食べられない人の加賀市のはづちを思い出しながら、スタイルを考えます。精神障がい児（者）のグループホーム、就労の場を作りたいが、どこから取りかかっているのか、模索している段階。鯖江市は、就労移行支援センターなどの公的動きをもつべき。
- 私は特別支援学校で栄養士として働いていますが、実は障がいのある人たちの卒業後、就労先の姿をほとんど知りませんでした。それぞれの場所で生きがいを持って仕事をされる様子をお聞きして、障がいがあるから難しいではなく、できる方法を一緒に探していきたいと思いました。今後、食の専門家として、障害のある方とかかわり、また力となれるように、食に関することはもちろん、福祉のことも勉強します。このようなお話しを聞く機会をいただき、ありがとうございました。
- いいと思います。どんどんやってほしいです。
- 努力してひとつのことを成し遂げる体制がベースにあると、それぞれ得意な分野で勝負でき、苦手な部分は人に委ねることができる。また、身近ですべての活動を見ることができるので、少しずつ自発的にさまざまなことに取り組むようになり、結果として新たな、できる喜びにつながると考えています。ひとつのことをやり遂げることは、人に認められ、存在意義・存在理由のある充実した生きがいのある人生を送ることにつながると思っています。☆冬場の活動は難しいですね。食べることにつながるものとしては、多分十分検討されていると思いますが…。保存食関係が手頃な活動なのではないでしょうか？また、屋台風雨の食べ物を作り、こころで販売というのも…。
- 福井大学内の就労支援室では、営利活動を認められていないことに驚きました。付加価値のある物を作っても売れない（もしくは支援室では受け取れないしぼりがある）のなら、販売業務専門の団体を作って外注するという形にはできないのでしょうか？がんばった分だけ収入も上がったり、病気で休んだ人の分もリカバリーできるといいなと思うのですが…。
- 障害者の生きがい・生活を支えていくことは、地域全体で考えることだと思いました。役割の中で成長する、という石井先生の言葉、心に残りました。役割→支援者は工夫して役割があるようにしていけないといけないな…と。そして「ありがとう」と言えるような場面を作っていきたいなと思います。
- なかなか雇用という面が社会全体的に厳しい世の中なので、福井大学の就労支援室みたいな雇用がふえていくといいなと思いました。私は学校の教員ですが、生徒を卒業させるにあたり、職場を見つけることも大切ですが、生徒を支援してくれる人を見つけ、つなげていくことがあらためて大切だと思いました。ありがとうございました。
- 各グループ、組織、障がいのある方、個々の立場がそれぞれ違い、むずかしい問題も多いが、一番は、本人が楽しく生きがいを感じられることだと、あらためて感じた。
- 石井先生のスウェーデンの話、もっとくわしく聞きたいです。

以上

会場風景



別紙

日本福祉文化学会北陸ブロック現場セミナーに参加しての感想をお聞かせください。

2013年11月2日(土)

1. 今回のセミナーを知ったきっかけは、何でしたか。当てはまるものに丸をつけてください。

新聞を見て(新聞名:)

ポスターを見て(どこで見ましたか?)

人から聞いて(その人はどんな立場の方ですか?)

その他 ()

2. 障がいのある人の生きがいを支えるコミュニティ～地産地消の食事づくりの実践から～のセミナーに参加して、考えたことをお聞かせください。

3. またこのような企画があったら、参加なさいますか。当てはまるものに丸をつけてください。

参加すると思う

参加はしないと思う

わからない

差支えなければ、お名前をお書きください。

回収箱に入れてください。ご協力、ありがとうございました。

